

第 46 回真庭市地域公共交通会議 議事録

日時：令和 7.10.1（水）10：00～12：00

場所：真庭市役所本庁舎 2 階大会議室（1）

出席：

- 【会長】 太田会長
【委員】 清水委員、小野委員、小林委員、玉置委員代理、長田委員、妹尾委員、眞柴委員、原田委員、佐田委員、三谷委員
【専門員】 宮地専門員、川島専門員、矢田部専門員
【事務局】 金谷生活環境部長、八木公共交通対策室長、三船係長、妹島主任、今石主事
【オブザーバ】 小川地域支援アドバイザー、木林産業観光部長、有門まちづくり推進課長、オムロン株式会社、株式会社バイタルリード

議事

発言者	内 容
太田会長	<p>開会</p> <p>八木室長挨拶 小川地域支援アドバイザー挨拶 太田会長挨拶</p> <p>お集まりいただき、感謝申し上げる。アドバイザー制度については、国に対して地方から現場の声を上げ続けた結果、このような伴走支援の制度ができた。公共交通における国、都道府県、市町村の役割分担は重要であり、本市は地域内移動の責任を明確にする必要があるまた広域交通は県や国との連携が不可欠である。JR 姫新線は、兵庫県側は多額の投資がされている一方、岡山県側は厳しい状況で、本市の公共交通関連の赤字額は年間約 1 億 5,000 万円を超え、財政全体で見ても厳しい状況にある。そのような中、「人口×活動量」がまちの活力であり、移動の自由を確保することは活動量を上げ、賑わいに繋がると考えている。本日はよろしくお願い申し上げる。</p>
太田会長	<p>審議事項（1）「北房オンデマンド交通の運行様態について」</p> <p>事務局より資料 1、資料 2、資料 3 を説明。</p>
太田会長	<p>審議事項（1）について何かあるか。</p>
太田会長	<p>ミーティングポイントを自治会内等によよそ 100 箇所設置とあるが、どの程度</p>

	設置の目途が立っているのか。
三船係長	自治会へアンケートを送付し、回答が返ってきた 87 箇所のミーティングポイントについて設置の目途が立っており、準備を進めている。
太田会長	新交通システムにおいて、チョイソコと同様の乗り合い率の課題が予想されるか。また、収支の見通はどうか。
八木室長	乗り合い率の向上は重要な課題である。1 運行あたり 3~4 人の乗り合いを目標に、効率的な運行モデルの構築を目指す。
	収支については、年間約 1,000 万円の赤字を見込んでおり、既存のまにわくん枝線の運行と比較すると約 400 万円の赤字増となる見込みである。この赤字は北房の交通単体でのカバーは困難なため、市公共交通全体の収支改善（新規補助金獲得や修繕費削減等）の中で対応していきたい。
小林委員	自家用有償運送について、運転者確保に目途はついているのか。
八木室長	現在、北房地区在住の運転手 3 名の確保に向けて調整を進めている。
太田会長	既存のまにわくん枝線の廃止に伴う地域への説明はどのように進めるのか。
八木室長	10 月半ばから会員登録促進のため個別訪問し、まにわくんの枝線廃止についても丁寧に説明していくことを予定している。
宮地専門員	自家用有償運送の運転者は、一種免許で可能だが、安全性を担保するため国土交通大臣認定の講習を受講することにより一定の安全面やサービスの質を担保が可能となる。
太田会長	事故のない、利用者に安心してもらえる運行をお願いしたい。
小野委員	なぜ導入車両は 2 台とも自家用有償運送ではなく、一般乗合旅客運送を組み合わせているのか。
八木室長	地域の交通事業者（北房観光）に運行主体となってもらい、事業の持続可能性を高めるため、自家用有償運送と一般乗合旅客運送とを組合せた運行としている。地域の資源を有効活用する観点から、既存のチョイソコまにわのスキームを参考に、事業者と協議の上で決定した。
妹尾委員	個別訪問について、北房すべての世帯を訪問するのは困難だと思うが、訪問の対象者などは決めているのか。
八木室長	（有）北房観光、岡山トヨタ自動車（株）と共に、北房地区全世帯、約 1,800 世帯への訪問を予定している。
清水委員	障がい者の介助者に対する運賃減免について、精神障がい者の介助者は対象となっていないのか。
三船係長	現行の「まにわくん」「チョイソコまにわ」の規定と統一しており、現時点では対象となっていない。
太田会長	この事項に関し承認いただける方は挙手願う。 (挙手多数)
太田会長	賛成多数により、承認されたものとする。

	<p>審議事項（2）「真庭市ライドシェア実証運行について」</p> <p>事務局より資料 4 を説明。</p> <p>太田会長　審議事項（1）について何かあるか。</p> <p>太田会長　台湾の利用者はどのようにタクシーを予約するのか。</p> <p>木林部長　利用者にはインターネットから予約を行う。また、台湾便利用者への周知については、航空会社からのメール配信によって案内する。</p> <p>小野委員　一般利用者向けに SNS 等で発信する予定はあるか。</p> <p>木林部長　真庭市観光局が持っている台湾への PR デスクを活用し、発信する。</p> <p>太田会長　本格運行への移行の判断基準は設定しているか。</p> <p>木林部長　実証実験期間中に利用者へアンケート調査を実施し、料金設定やニーズを分析した上で、本格運行の実現可能性を判断する。</p> <p>小林委員　本事業では、タクシー事業者を優先的に配車し、対応できない場合にライドシェアでの運行を行う。一般タクシーを補完する形での協力体制について事前に調整を行っている。</p> <p>太田会長　この事項に関し承認いただける方は挙手願う。 (挙手多数)</p> <p>太田会長　賛成多数により、承認されたものとする。</p>
	<p>審議事項（3）「真庭市における地域公共交通の課題と地域公共交通計画で目指す公共交通の姿について」</p> <p>事務局、バイタルリードより資料 5 を説明。</p> <p>太田会長　審議事項（3）について何かあるか。</p> <p>小川アドバイザー　真庭市の AI デマンドの運行やインバウンド向けの実証実験を行うなど、先進的な取組を評価している。今後の計画策定における視点として、真庭市内の移動を確保することに加え、近隣自治体との「広域連携」も重要である。蒜山地区においては鳥取県倉吉市への移動があるなど、移動が市内で完結するわけではないため、市外への移動も考慮する必要がある。また、医療・福祉や観光といった「分野連携」も重要となる。行政・事業者がアイデアを出し合い、持続可能な公共交通を構築する必要がある。</p> <p>三谷委員　福祉分野との連携は不可欠である。特に、要介護認定を受けていない高齢者等の買い物や通院といった「生活支援」と移動を一体的に捉える視点が重要である。</p> <p>妹尾委員　作業所に通われる方がまにわくんに頼りきりになっている現状がある。官民連携を今一度強化していく必要がある。</p> <p>小林委員　運転手不足は喫緊の課題である。特に二種免許の取得費用（約 50 万円）は個人の負担が大きく、担い手確保の障壁となっている。市の取得補助金（上限 5 万円）の抜本的な拡充を検討してもらいたい。</p>

太田会長	様々なご意見に感謝する。市の財政も厳しい中、公共交通だけで年間 1.5 億円近い赤字をどう減らしていくかという視点は不可欠である。人口減少を見据え、スクールバスや福祉輸送も含めた市全体の輸送サービスの重複をなくし、効率化を図る必要がある。運転手確保のための補助金については、雇用対策の観点も含めて検討したい。
小野委員	人材確保について、自社の事例として UIJ ターン希望者をターゲットに、免許取得費用や住宅の支援を会社として行うことで、一定の成果を挙げている。公共交通単体で収支を考えるのではなく、観光など「外で稼ぐ」事業と一緒に経営することで、不採算部門である地域交通を維持している。広域観光や万博などの機会を捉え、自治体や事業者の垣根を越えて連携し、外部の需要を取り込む視点が不可欠だと考えている。
太田会長	非常に重要な視点である。外需を取り込み、地域に還元する仕組みを構築する必要がある。真庭市は CLT 建築等の多様な地域資源を有しているため、これらを活用し、真庭市観光局とも連携して取組を強化したい。
太田会長	この事項に関し承認いただける方は挙手願う。 (挙手多数)
太田会長	賛成多数により、承認されたものとする。
報告事項（1）「令和 6 年真庭市地域公共交通事業報告について」	
太田会長	事務局より資料 6 を報告
八木室長	報告事項（1）について何かあるか。 ないようなので、これを持って閉会とする。
長田委員	最後に長田分科会長より挨拶をお願する。
長田委員	活発なご意見に感謝する。市民が公共交通を「知り、乗り、守る」という意識を醸成することが何より重要だと改めて感じた。行政や事業者の努力に加え、地域住民自身が自分たちの足を守るという当事者意識を持つことが、持続可能な交通体系の構築に繋がる。我々も地域での周知活動に一層力を入れていきたい。
閉会	